

# 世界一安全な 原子力発電所にするため あらゆる努力を

東京電力福島第一原子力発電所の事故から2年余りが経ち、この7月、原子力規制委員会が策定した新たな規制基準が施行された。中部電力では、東日本大震災以前から、常に最新の知見をもとに浜岡原子力発電所の安全性向上に取り組んできている。現状と今後の方向性などを阪口正敏副社長に聞く。



——改めて震災後の2年余りを振り返ってどうか。

夏のピーク時を中心に電力需給の逼迫する中、何とか安定して電気を届けられることができました。ひとえに、長きにわたり節電に多大なご理解とご協力を賜ったお客さまのおかげと、改めてお礼申し上げます。

福島第一原子力発電所の事故については、原子力発電に40年近く携わってきた技術者の一人として

痛恨の極みであり、このような事故は二度と起こしてはならないと肝に銘じました。今なお、多くの方々が避難生活を余儀なくされ、社会の皆さまに大変なご心配やご迷惑をおかけしていることは、電気事業者として誠に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

当社は、政府からの運転停止要請を受けて浜岡の全号機を停止しました。これは原子力発電を長期的に活用していくためには、地元

の皆さまの不安を真摯に受け止めて、信頼を得ていくことが不可欠であると考えた末の苦渋の決断でした。

その後、浜岡ではこの事故で得た知見を踏まえ、津波対策工事やシビアアクシデント対策など安全性向上の取り組みを全力で進めています。この2年間、ご批判やご不安の声などを多く頂戴しています。私も電気事業者は、社会の皆さまの信頼やご協力で支えられ

て成り立っていることを改めて強く認識する毎日です。

## 多様な電源を バランス良く組み合わせる

——この2年間電力が安定供給されたことで浜岡は不要ではないかとの声もある。

浜岡停止以降、節電のご協力をいただきながら、老朽化した火力の立ち上げや定期点検の繰り延べなどにより、火力機を総動員し、



中部電力 代表取締役副社長執行役員  
原子力本部長

## 阪口 正敏

(さかぐち・まさとし)三重県出身。名古屋大学大学院工学研究科化学工学専攻修了後、1975年に中部電力入社。98年東京支社副支社長、2001年浜岡原子力発電所副所長を経て、05年執行役員発電本部原子力部長。07年常務執行役員発電本部原子力部長、10年代表取締役副社長執行役員発電本部長、11年6月より現職。

供給力を必死で確保したのが実情です。これは、緊急避難的なもので将来にわたってこのままでいいということにはなりません。

日本のエネルギー政策は、オイルショックを教訓に、特定のエネルギーに過度に依存せず、多様なエネルギーをバランス良く組み合わせてやることでさまざまなリスクに対して柔軟に対応できる安定したエネルギー基盤をつくることを目指してきました。原子力発電はこのような経緯の中、多様な電源の一つとして重要な役割を担ってきました。

日本はエネルギー自給率がわずかに4%の資源小国で、資源の多く

を輸入に頼らざるをえません。世界的に限られた資源の獲得競争が一層熾烈になる中、日本は原油価格の高騰や化石燃料調達の特定期域への依存など、さまざまなリスクに直面しています。エネルギーは暮らしや産業に欠くことができ

ない国の根幹をなすもので、エネルギーの安定供給を確保することは非常に重要です。また、浜岡停止による代替電源を火力発電に大きく依存しており、化石燃料の増加分だけで年間3200億円もの追加コストが発生しています。さらに、「原子力」というカードを手放してしま

った場合、化石燃料調達にあたっての価格交渉力は間違いなく低下してしまいます。もう一つ、震災後忘れられたかのようになっています。二酸化炭素排出量の抑制など地球環境問題への対応

も依然重要な課題です。

このような日本の置かれた状況は震災後も変わっていません。「安全」を大前提に、エネルギーの「安定供給」「経済性」「環境保全」を同時に達成する観点から、エネルギーミックスが極めて重要です。将来にわたり安価で安定的に電気を届けたいには、多様な電源をバランス良く組み合わせなければなりません。このため、安全性の確保と社会の皆さまの信頼を大前提に、原子力発電を引き続き重要な電源の一つとして活用していくべきと考えます。

### 常に最新の知見を反映し 安全性向上を追求し続ける

——安全性向上の取り組みの基本的な考え方を改めて聞きたい。

当社は、想定東海地震のみならず、東南海地震、南海地震を加えた3連動の地震を考慮し、従来から、国の安全基準に対応するだけでなく、自主的に耐震性を高める工事を行うなど、常に最新の知見を反映し、より厳しい目標に対して安全対策を積み重ねてきまし

た。

震災後は、福島第一の事故の知見を踏まえ、津波対策工事やシビアアクシデント対策などのハード面だけでなく、防災訓練をはじめとするソフト面からも、一層の安全性向上に取り組んでおります。社員はもとより協力会社を含め関係者が一丸となって世界一安全な原子力発電所にするために、あらゆる努力を惜しむことなく全力で取り組んでいます。

安全対策においては「これをやったら十分。これで百点満点」ということはどこまでいってもありません。常に最新の知見をもとに、安全性をさらに追求し続けることが最も大事なことであり、「他にもっと出来ることはないか」常に想像力豊かに考え続け、「出来ることは全てやりきる」という覚悟で臨んでいます。

今後とも、このような私どもの考えや具体的な安全性向上の取り組みの内容を丁寧にご説明することで、地元をはじめ社会の皆さまの安心につながるよう、全力で取り組んでまいります。